

令和 7 年度

事業所名 : あお空グループホーム釜石

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム釜石		
所在地	〒026-0302 岩手県釜石市片岸町第2地割13番地28		
自己評価作成日	令和7年11月7日	評価結果市町村受理日	令和7年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士を中心に各自役割を分担し、担うことで支援の意識を高めている。技能実習生を迎え、人材の育成にも力を入れている。また、チームオレンジの活動に参加し、地域との交流機会を増やしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道45号線を山手に入った高台の住宅街に位置しており、東日本大震災の時には避難してきた地域住民を受入れるなど、地域に根ざした福祉施設である。グループホームの他に小規模多機能ホーム、サービス付高齢者住宅が併設されており、利用者は建物中央にあるホールに集まって、楽しくにぎやかに過ごしている。職員は「笑顔で楽しく」という理念のもと、「笑顔」を意識したケアに取り組んでいる。認知症ケア専門の事業所としての意識が高く、職員は認知症サポーター養成講座、キャラバンメイト、指導者研修などを受講しており、将来的には地域での認知症相談や認知症に関する福祉教育にも取り組んでいきたいとしている。医療機関との連携により看取りにも積極的に取り組んでおり、終の棲家として利用者や家族に寄り添ったケアを実践している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者と共に過ごす時間を楽しいと感じられなければ利用者も、また同じ気持ちであると思うので、明るく楽しい生活の場を提供するよう施設の理念として努力をしている。	5年前に職員アンケートを行い、その結果を基に職員で話し合って定めた理念、「笑顔で楽しく」を施設内に掲示し、職員は常に「笑顔」を意識してケアにあたっている。利用者も職員も笑顔で過ごせるよう毎月の目標を立て、各委員会の提案を活かして業務改善に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	チームオレンジの活動に参加し交流、意見交換を行っている。また、散髪や、買い物など馴染みのある地元の店舗を利用している。地域の避難訓練や、清掃活動、学校の避難訓練に職員が参加し交流している。	自治会に加入しており、地区の集まりに職員を派遣し、グループホームの紹介をしているほか、神社の参道の清掃や国道周辺の花壇整備、チームオレンジへの参加など、地域との交流に取り組んでいる。また、民謡、踊り、フラダンスなどのボランティアの受け入れも行っている。大家さんから野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	居宅支援事業所と連携し事業所の特性を説明し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用状況の報告や各委員会の活動の報告をし、報告に対する質問や改善の指摘を運営に生かす努力をしている。	運営推進会議は年に4回開催するよう計画し実施している。委員には、行政、町内会、民生委員、地域住民、家族代表、利用者代表で構成されている。感染症対策のほか、クマ対策の生ゴミの処理、市への坂道への街灯の設置の要望、技能実習生の生活指導などの助言や提案を受け、業務の改善や新たな対策などに反映させている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当課へ週に1度出向き、書類の受け取りなど事務連絡等を受け協力関係を継続している。また、役所が主体となって連絡会議を開いており、毎回参加するように心がけている。	市の担当課に週1回出向いて書類や連絡事項を受け取ったり、メールでのやり取りを通じて市と連携している。生活保護担当ケースワーカーが利用者の状況把握のために定期訪問しており、日頃の状況について伝えることができる。市主催の地域ケア会議やその他の研修会に職員を派遣し、地域包括支援センターの事例検討会にも出席し、他の事業所との情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会にて定期的に会議を開き検証、研修をし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、虐待防止委員会を兼ねた委員会を年4回開催している。委員は職員6名で構成し、身体拘束や虐待についての議題を検討し、作成した議事録を全職員に回覧して周知している。身体拘束の実例は無いが、日常的にはスピーチロックに気を付けてケアに取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠している。1名が離床確認用に赤外線センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止対策委員会にて定期的に会議を開き検証、研修をし理解、注意喚起に努め虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者の研修が今後必要と考える。個々の必要性はケアマネジャーと相談・検討している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	不明な点や疑問があればその都度、説明し理解を図っている。契約後であっても不明点あれば電話等に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議等で家族様や利用者様に参加してもらい、要望・意見を求め、その意見を運営に活かすよう努めている。	発行は不定期であるが、広報を年2回作成して家族に日常の様子をお知らせしている。家族からの意見は面会時に寄せられることが多く、内容は外泊や外出の要望など利用者個々の対応に関するものが主となっている。	なかなか面会に来れない遠方の家族なども意見や思いが伝えられるよう、まずは事業所から広報などを通して積極的に情報提供していくことが望まれます。家族に日ごろの様子を知ってもらう事、そこから家族等の意見や要望などの声を聞く機会を作り、その声を運営に反映させることによって、さらに親しみのある事業所運営につながることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者及びリーダークラスのメンバー構成で運営会議を行い、意見や要望の検討を行う機会を設け施設運営に反映させている。	職員会議は不定期開催であるが、朝夕のミーティングや申し送りノートを有効に活用している。古くなった備品の買換えについて提案され、今年度は炊飯器や加湿器を購入した。今年度から管理者による職員面談を行っており、職員からの意見を直接聞くことが出来る機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月、勤務表を作成する際に休み希望を聞き、柔軟に対応している。居室担当や委員会の役割などを配置し向上心を持って働くよう務めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の資質向上は必須条件と捉え、教育担当者を配置し新人研修から資格の取得など積極的に取り組んでいる。また、本人の要望に合わせ研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	系列の事業所と電話や訪問等の交流があり、情報交換している。また、外部研修を通じ、同業者との交流に務めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面談でサービスの理解ができない場合も多く回数を重ねて理解と納得を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前調査の際、本人、家族様と面談し困りごとを傾聴している。本人、家族の不安感の軽減に努めながら問題点を共有し支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ニーズに合わない場合もあるので、その場合は他の事業所との連絡、調整も行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	居室の掃除や、食事前のテーブル拭き、洗濯作業など能力に応じて協力してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	担当職員を配置し家族と密な関係を築き、連携を図っている。玄関先での面会や、外出、外泊の希望にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染症対策のため状況に合わせて面会制限や外出制限を行っているため、思うよう面会や外出はできていない。玄関先での面会はマスク着用している。	感染防止のための制限はあるが、利用者個々の馴染みの関係を大切にするための支援に努めている。居室担当と一緒に買い物では、入居前から行きつけの地元スーパーに行ったり、買い物ついでに自宅周辺のドライブを行っている。年賀状や手紙が届くと、お礼の電話をかけたいと話され支援している。2か月に1回の散髪に来てくれる理容師さんを心待ちにして、新たな馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	同郷者や介護度・認知症状の状態に合わせて、話が合う方同士を食席配置し孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や他施設への入居の際は、その後の経過について家族や事業所・医療機関に必要に応じて情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当職員を配置し利用者一人ひとりの意向の把握に努めている。些細な要望や意向を聞けるよう務めている。困難な場合は、家族様と相談するなどし対応している。	利用者の多くは会話によるコミュニケーションは出来るが、難聴のため会話が困難な利用者には筆談やジェスチャー、傾聴に努めるなどの工夫により対応している。日常の会話や入浴時などに伺った思いや意向は、日誌に記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴等の情報収集を行っている。また、日々の生活の中で担当職員を中心に本人様、ご家族様より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の中で常に見守り、情報収集を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	短期間6か月、長期1年毎に計画の見直しを行っている。居室担当職員とケアマネジャーによる3か月毎のモニタリングと、カンファレンスを経て介護計画案を作成し、家族の意向を聞き取り、ケアマネジャーが介護計画を作成している。	介護計画は3か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとの短期目標と1年の長期目標を設定し、進捗状況に照らしながら定期的に見直しを行っている。状態の変化時にはその都度速やかに見直している。居室担当と介護支援専門員が主になってモニタリングを行い、カンファレンスを経て介護計画案を作成し、家族から意見や意向を確認している。カンファレンスには看護師も参加し医療面の意見が反映されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は記入し、申し送りやカンファレンス等で話し合い情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族様の状況に合わせ柔軟に対応できている。本人、施設の機能を見て出来る事は直ぐに対応することを旨としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	2か月に1度地元の床屋さんに来てもらい、散髪してもらっている。また、地元のお祭りの際は施設に来ていただき披露していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	サービス提供以前からのかかりつけ医との連携を尊重している。かかりつけ医以外の受診も、本人・家族様と相談し、施設の対応範囲で可能な限り複数の医療機関への受診に対して家族の協力も得ながら支援を行っている。	定期受診は家族対応が2名、職員対応2名、訪問診療5名となっている。家族が対応する場合には、看護師が主治医宛てに日常の状態について連絡票を作成して情報提供している。受診後は家族からの報告を記録して、職員間で共有して対応している。訪問診療は月2回あり、希望者のワクチン接種にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の申し送りを通じ、介護職員と看護師の情報共有を行っている。また、通院、受診の際は利用者の症状を確認し、医療機関とも常に連携して対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院に際して相互にサマリー作成し情報交換をし対応にあたっている。(医療、介護共通の様式を使用)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化していく中で多くの家族が利用の継続について不安を抱いており、医療機関と連携し見取り対応を実施していることを初期の段階から説明し理解を求め不安の軽減に努めている。	重度化や終末期の対応については入居時に説明を行い、本人や家族の意向を確認している。状態変化に合わせて、担当医師から説明してもらい再度意向を確認し、家族が納得する方向で対応している。訪問診療医師の協力により、看取りまで対応が可能で、今年度は1名を事業所で看取っている。医療機関との連携により職員は不安なく看取り対応が出来るようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成して利用し、対応できるようにしている。また、救急車の要請や、訪問診療への要請についても用紙に記入し職員間で共有できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。また、BCP(事業継続計画)を活用し対策に取り組んでいる。地域とも連携し、災害時には非常用物資などの協力を得られるよう体制を整えている。	ハザードマップの危険区域にはなっておらず、むしろ事業所が高台にあることから、東日本大震災の際には地域住民の避難所として受け入れた実績がある。火災想定避難訓練を年2回計画しており、今年度はこれから総合訓練と夜間想定訓練を予定している。食材3日分程度を事業所で備蓄しているほか、事業所の隣にある地区の防災倉庫に必要な資器材が備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室プライベート空間であり、入室の際にはノックや一声かけてからの入室を心がけている。居室ドアのガラス面にはロールカーテンを使用しプライベート保護を行っている。言葉での虐待や、拘束にも気を付けるよう、研修を通じ注意喚起している。	利用者の個人ファイルは事務室、個人情報の入っているパソコンはパスワードをかけて管理を徹底している。人権や人格の尊重に努め、方言を交え親しみを込めた接し方を心がけながらも、礼儀を忘れないよう十分配慮している。羞恥心を抱きやすい排泄や入浴の介助については、本人の意向を確認しながらプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクリエーション活動の参加の有無や、行事食のメニューなど、日々のコミュニケーションの中で思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の体制により都合が合わないこともあるが、起床、就寝、食事、入浴等、その日の状態に合わせて自己決定してもらい利用者様のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着衣を選ぶ際利用者様に自己決定してもらい利用者様の意見を尊重している。また、パーマ等希望があればその都度対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	おやつ、おかずの下準備をできる範囲で、共同で手伝ってもらっている。行事食などは、利用者様からの要望を聞き取り入れて提供している。	厨房担当の職員が一週間分の献立を作成し食材を発注しているが、昼食と夕食には必ず一品を手作りし、地域の方や家族から差入れられた食材を生かして季節感のある食事を提供している。利用者は野菜の皮むきなど出来る作業と一緒にしている。リクエストの多い、ラーメンやカレー、寿司のほか、敬老会には天丼と海鮮丼の選択食、ひな祭りやクリスマスなどの行事食も工夫して提供し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表を用いて摂取量を把握している。また、利用者様の希望にて小盛りや大盛りなど栄養バランス内で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔清拭を利用者様のADLに合わせ声掛け、一部介助、全介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて、定時声がけ誘導し、失禁前にトイレにて排泄できるよう対応している。また、トイレに張り紙などを用いて、工夫し認知症、難聴の方への対応も行っている。	自分でトイレで排泄できる人は5名、4名は声がけや誘導を行っている。排泄チェック表を用いて個々のタイミングに合わせ、出来るだけ失敗しないように支援している。失敗した場合にも、本人のプライドを傷つけないようにしさりげない対応に努めており、自宅ではリハビリパンツを着用していたが、入居後の支援によって布パンツ着用になった利用者もいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、排便の管理をしている。また、水分摂取やレクリエーション活動を通じて運動を促し、自力排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴の曜日は決まっているが利用者様の体調、気分、通院状況により時間帯や日にちをずらすなど臨機応変に対応している。また、希望があればその都度対応している。シャンプー、ボディソープにこだわりがあれば個々に対応している。また、好みの音楽を流すなどし、リラックスできる環境作りに務めている。	原則週2回の入浴としている。毎日、午前中に入浴し、一番湯などの希望に対応している。長期の入浴拒否者はなく、拒否者には、日程変更で対応している。浴室は広々としており、木のぬくもりが感じられる浴槽に入浴剤を入れ、希望があれば音楽を流すなど、楽しく入浴できるよう工夫している。入浴は職員と一対一で会話を楽しめる有意義な時間にもなっている。現在は利用していないが、機械浴槽も備えてあり重度化への対応も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中においても自由に居室で休まれたりしてもらっている。夜間も完全消灯を設けず状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師のみに任せず服薬内容もカルテにはさみ常に症状の変化に対応できるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主に担当職員を中心に支援している。一緒掃除をしたり、ゆっくりテレビを見たり、話をしたり、パズル、塗り絵、タブレットを使用しYouTubeを閲覧するなど、したいことを無理なく楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	担当職員が中心となりコミュニケーションをとり意向の把握をに対応している。家族や地域の協力体制はできていない方もいる。レクリエーション活動で花見や紅葉などを見に、住んでいた近くにドライブに行くようにしている。	お花見や紅葉狩りなど少人数ドライブでは、利用者の自宅周辺をコースに取り入れるなどの配慮を行っている。本人の希望を叶えるために、居室担当者と二人で買い物に出かけたり、家族の協力により、面会時や通院時に合わせてドライブや外食を楽しんでいる。お天気の良い日には戸外へ出て散歩をしたり、庭でお茶を飲むなど四季折々の自然を楽しむ事ができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の自己管理能力を見極めて本人、家人承諾のもと、所持管理をしてもらっている。その他、自己管理が困難な方は、預かり金として施設管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも対応できるようにしている。携帯電話を所持している方も何名かいる。また、タブレットを用いてテレビ電話など対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに、ホールの壁にレクリエーション活動で作成した作品を飾り、季節感のあるよう努めている。テレビ付近の窓はカーテンで調節し、まぶしすぎないように対応している。ホール内の温度は大型エアコンにて調整している。	小規模多機能ホームが併設しており、共有のホールに集まって交流している。広々としたホールにはソファやテーブル、大型テレビなどが配置されテレビを見たり手芸をしたりなど思い思いに過ごすことができる。室温はエアコンで管理され、加湿器で乾燥を防止している。天窓からは自然光が差し込み、壁には季節感のある飾りつけが施され、全体が明るく温かな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	小規模多機能と併設しており、ハード面(建物構造)は十分なスペースを確保している。自由に使用できるソファも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の説明の際、特に制限は設けていないことを説明している。位牌や、冷蔵庫等持参されている。居室は本人の趣味・趣好を聞き、入居後でもできるだけ取り入れている。	居室にはベッド、洗面台、クローゼットが備え付けてあり、室温はエアコンで適温に保たれている。利用者はそれぞれテレビや衣装ケース、椅子、テーブルなど必要な物を自由に持ち込んで居心地よく過ごせるように配置している。写真やドライフラワー、趣味の物など馴染みの物を置き、その人らしい居室づくりを工夫しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室ドアに張り紙をする等、対応している。ホール、トイレは広さを保ち安全に過ごせる造りになっている。		